

大項目 1 大学・学部等の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標

【目標】

大学の設立の趣旨や理念・目的さらに専攻領域の特性に基づき、教育目標を明確に定めるとともに、そのなかでいかなる人材を養成しようとするのかを具体的に明示する。また、こうした教育目標に則って、教育研究活動に必要な組織・制度とその諸条件を整備し、目標達成に向けて研究活動をおこなっているかどうかを点検する。

1) 大学

【理念・目的等】

A群 大学・学部等の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性

A群 大学・学部等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性

●現状把握

武蔵野美術大学の教育理念は、1929(昭和4)年10月1日、帝国美術学校が吉祥寺の地に創立されたときに起草した。帝国美術学校の創設に寄与し、後にその経営と教育の中心となった金原省吾の手記に「教養を有する美術家養成」と記され、同じく、名取堯の回想に「その框を固定せず、しかも放縦に任せず、真に人間的自由に達するような美術教育への願い」であると語られている。また、1930(昭和5)年の校歌では北原白秋が「道に遊ばむ」、「堪えて忍ばむ」、「外へ矜らむ」と謳った。このように、美術を技術的専門性だけではなく、総合的な人間形成をもって成るものと考えた。まさに人間的自由に達するために美術・デザインを追求することこそが、本学の教育理念と言えるのである。

造形学部(学士課程)、大学院(修士・博士課程)、通信教育課程のそれぞれの教育目的は、その設置段階から、武蔵野美術大学学則第1条、武蔵野美術大学大学院規則第1条、武蔵野美術大学造形学部通信教育課程規程第1条に明記されて現在に至っている。

武蔵野美術大学は、美術、デザイン、建築をはじめとした学術の中心として、深く専門の技能、理論及び応用を教授研究し、造形学部においては一般的・専門的教育の基礎を教育し、さらに大学院修士課程においてはその深奥に迫り、博士課程においては一層の研鑽を図り、また、通信教育課程においては生涯学習の時代における開かれた専門教育の充実を期するものである。

以上のように、武蔵野美術大学は、教養を有する美術家養成を行うことを理念として建学され、真に人間的自由に達するような美術教育をめざしている。

武蔵野美術大学造形学部は、美術、デザイン及び建築に関する学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の技能、理論及び応用を教授研究し、本学の理念とする人物を養成して、文化の創造発展と社会の福祉に貢献することを目的としている。

武蔵野美術大学大学院は、造形学部における一般的・専門的教育の基礎のうえに、美術・デ

ザインに関する専門の技能、理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めた本学の理念とする人材を養成して、文化の創造発展と社会の福祉に貢献することを目的としている。

武蔵野美術大学造形学部通信教育課程は、通信の方法によって、造形に関する学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の技能、理論及び応用を教授研究し、本学の理念とする人物を養成して、文化の創造発展と社会の福祉に貢献することを目的としている。

●点検・評価

本学の教育理念は、現状把握で述べた通り、「それぞれの専攻の専攻に関わる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目的とする。」学士課程の基準に合致している。またその点検を不断に行なうための組織である自己点検評価委員会を有し、点検評価活動をおこなっている。さらに、重要事項については、全員参加による研修会を開催し、討議をおこなっている。

本学の理念は、学則、大学案内、WEB ページで公開されており、80 周年パンフレット、『武蔵野美術大学 60 年史』等機会があるたびに掲載されている。大学史史料室では、資料の整理と記録の刊行をおこなっている。本学の理念は、本学の構成員ばかりでなく、学外者に対しても周知されるよう意図されており、また、そのためのメディアも出版物ばかりでなく、インターネット等を活用し、アクセスしやすいものに展開されている。

●改善・改革方策

大学の理念・目的およびその適切性は、今日の状況においては、大学をとりまく社会的、国際的な、大学の外からの観点から検証される必要がある。本学は、国際部を設置するとともに、早くからヨーロッパにおける主要な美術大学と学生の交換をはじめとする交流をし、今日ではこの交流はアメリカやアジアの多くの大学に及んでおり、これらの交流を通して、本学の教育理念が比較され検証されている。さらに、2004 年には産官学共同研究を推進するために研究支援センターを設置し、本学の教育研究がこの観点からも顧みられることになった。

本学の理念・目的・目標は、社会的、国際的な観点から検証され、またその周知の方法は、現状把握で述べたように複数のメディアで周知されており、80 周年記念諸事業を契機として、一層周知を徹底していく。

2) 学部

【理念・目的等】

●現状把握

造形学部は、「美術、デザイン及び建築に関する学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の技能、理論及び応用を教授研究し、人格の完成を図り、個性豊かな教養の高い人材を養成し、もって文化の創造発展、国家社会の福祉に貢献することを目標とする。」（武蔵野美術大学学則、第1条）という理念のもとに、1962年に狭義の美術である、日本画、油絵、版画、彫刻に関する専門と、デザインに関する専門の学科を有する学部として創設された。その設立の趣旨は次のようなものである。

本学は従来の武蔵野美術学園の伝統と教育実績を継承し、さらにそれを創造的に発展させる意図のもとに発足したものである。学部の名称が造形学部というのも耳新しいが、本学開設の意義は、わが国においてユニークな性格を担って、新しい真の造形教育の方向を樹立しようとする処にある。（中略）

美術学科は、厳しい造形力の中で深い人間精神を表現し、培養するものとしての美術を教授しようとするもので、すぐれた技術、これに対する情熱と誠実さをもって、よき社会の創造に参加し得るような健康な国民の養成を目的とするものである。そのためには学習の前半において、準備教育としての基礎を養うことに意を用いる。（中略）後半においては、作家の表現したい感動を与えられた素材により、あらたに造形していくという作家としての基本的態度を指導するものである。（中略）

産業デザイン学科は、学生の造形能力や感覚の自由な発展を目的とし、特に、デザインの基礎教育を重視する。民族と時代を問わず万人に共通した人間の精神感情感覚や不変なデザインの基本形態の存在を理解した上で、（中略）常に移りゆくあらゆる生産およびに宣伝に敏感に感応し得る潜在力をもったデザイナーの養成という社会的必要に応じようとするものである。」（有光次郎学長「大学の教育方針」、『武蔵野美術大学60年史』、平成2（1990）年）

●点検・評価

造形学部はこの理念と目的のもとに、作家、学校教育者、社会教育者、デザイナーをはじめとする、多くの美術の専門家を輩出するとともに、社会における造形の役割を提唱し、この活動をおこない、敷衍に努めてきた。

造形学部設立以降も、造形学部の内発的な展開と、また同時に社会からの「造形」の専門家養成の必要性の要請に応じて、「遊具から建物、そして都市まで、美術としての建築デザイン」を目的とした建築学科（昭和39（1964）年に産業デザイン学科の専攻として、昭和40（1965）年学科となる）、「デザインの諸領域を横断する基礎デザイン学の探究」を目的とした基礎デザイン学科（昭和42（1967）年）、「デジタルを共通基盤として総合的な視野から映像を創造する」ことを目的とした映像学科（平成2（1990）年）、「芸術学、メディア、マネジメントという視点からアートとデザインを社会と結ぶ」ことを目的とした芸術文化学科（平成11（1999）年）、「テクノロジー、メディア、社会科学の視点から新しいデザインする力を創造する場」を目的としたデザイン情報学科（平成11（1999）年）を開設し、造形の専門家の人材養成を充実させてきた。

さらに、2002年に開設された造形学部通信教育課程は、「造形学部通信教育課程を設置し、教育基本法に則り、学校教育法第54条の2の規定により通信の方法によって、造形に関

する学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の技能、理論及び応用を教授研究し、人格の完成を図り、個性豊かな教養の高い人材を育成し、もって文化の創造発展、社会の福祉に貢献することを目的とする。」(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程規程、第1条) 開設主旨には次のように述べられている。

美術・デザインは、今日、社会のすみずみに浸透し、生活の豊かさを実現するうえで欠くことのできない役割を果たしています。また一方で、時間や場所に制約されず、さまざまな機会に学び、あるいは生涯を通じて学び続けていく、新たな学びの時代が訪れています。広く社会に、時代に、そしてあらゆる人々に開かれた大学をめざして、さまざまな改革を進めてきた武蔵野美術大学はこうした要請に応えるために、2002年から造形学部通信教育課程を発足させました。(『造形学部学科案内』、平成17(2005)年)

●改善・改革方策

これからの社会において、造形の意義はますます重要視される。この分野の専門家養成において、平成18年度から本学の11学科2専攻に対応する狭義の学科別専門教育とそれらの学科別専門教育に通底する広義の造形教育との均衡をどのようにとっていくのかが、入試制度、教育制度を展開していくうえでの鍵になる。造形学部では、入試や教育に関する委員会、将来構想の検討の中で常にこの議論が繰り返されてきた。美術系学科の間でも、またデザイン系学科の間では一層顕著に学科間の専門性の重複が見られ、学科間にまたがる新たな専門領域が立ち現れている。このことを踏まえて、もちろん現在の造形学部学科構成そのものが造形学部の短所とは見なされないとしても、上述の課題に対して、今後も学科構成とその適正人数については教授会を中心に継続的に検討していかなくてはならない。

A群 大学・学部等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性

●現状把握

武蔵野美術大学の教育理念は、1929(昭和4)年10月1日、帝国美術学校が吉祥寺の地に創立されたときに起草した。帝国美術学校の創設に寄与し、後にその経営と教育の中心となった金原省吾の手記に「教養を有する美術家養成」と記され、同じく、名取堯の回想に「その框を固定せず、しかも放縦に任せず、真に人間的自由に達するような美術教育への願い」であると語られている。また、1930(昭和5)年の校歌では北原白秋が「道に遊ばむ」、「堪えて忍ばむ」、「外へ矜らむ」と謳った。このように、美術を技術的専門性だけではなく、総合的な人間形成をもって成るものと考えた。まさに人間的自由に達するために美術・デザインを追求することこそが、本学の教育理念と言えるのである。

造形学部(学士課程)、大学院(修士・博士課程)、通信教育課程のそれぞれの教育目的は、その設置段階から、武蔵野美術大学学則第1条、武蔵野美術大学大学院規則第1条、武蔵野美術大学造形学部通信教育課程規程第1条に明記されて現在に至っている。

武蔵野美術大学は、美術、デザイン、建築をはじめとした学術の中心として、深く専門の技

能、理論及び応用を教授研究し、造形学部においては一般的・専門的教育の基礎を教育し、さらに大学院修士課程においてはその深奥に迫り、博士課程においては一層の研鑽を図り、また、通信教育課程においては生涯学習の時代における開かれた専門教育の充実を期するものである。

以上のように、武蔵野美術大学は、教養を有する美術家養成を行うことを理念として建学され、真に人間的自由に達するような美術教育をめざしている。

武蔵野美術大学造形学部は、美術、デザイン及び建築に関する学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の技能、理論及び応用を教授研究し、本学の理念とする人物を養成して、文化の創造発展と社会の福祉に貢献することを目的としている。

武蔵野美術大学大学院は、造形学部における一般的・専門的教育の基礎のうえに、美術・デザインに関する専門の技能、理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めた本学の理念とする人材を養成して、文化の創造発展と社会の福祉に貢献することを目的としている。

武蔵野美術大学造形学部通信教育課程は、通信の方法によって、造形に関する学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の技能、理論及び応用を教授研究し、本学の理念とする人物を養成して、文化の創造発展と社会の福祉に貢献することを目的としている。

●点検・評価

本学の教育理念は、現状把握で述べた通り、「それぞれの専攻の専攻に関わる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目的とする。」学士課程の基準に合致している。またその点検を不断に行なうための組織である自己点検評価委員会を有し、点検評価活動をおこなっている。さらに、重要事項については、全員参加による研修会を開催し、討議をおこなっている。

本学の理念は、学則、大学案内、WEB ページで公開されており、80 周年パンフレット、『武蔵野美術大学 60 年史』等機会があるたびに掲載されている。大学史史料室では、資料の整理と記録の刊行をおこなっている。本学の理念は、本学の構成員ばかりでなく、学外者に対しても周知されるよう意図されており、また、そのためのメディアも出版物ばかりでなく、インターネット等を活用し、アクセスしやすいものに展開されている。

●改善・改革方策

大学の理念・目的およびその適切性は、今日の状況においては、大学をとりまく社会的、国際的な、大学の外からの観点から検証される必要がある。本学は、国際部を設置するとともに、早くからヨーロッパにおける主要な美術大学と学生の交換をはじめとする交流をし、今日ではこの交流はアメリカやアジアの多くの大学に及んでおり、これらの交流を通して、本学の教育理念が比較され検証されている。さらに、2004 年には産官学共同研究を推進するために研究支援センターを設置し、本学の教育研究がこの観点からも顧みられることになった。

本学の理念・目的・目標は、社会的、国際的な観点から検証され、またその周知の方法は、現状把握で述べたように複数のメディアで周知されており、80 周年記念諸事業を契機として、一層周知を徹底していく。

3) 大学院

【理念・目的等】

A群 大学院研究科の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性

B群 大学院研究科の理念・目的とそれに伴う人材養成等の目的の達成状況

●現状把握

大学院は、「学部における一般的・専門的教育の基礎のうえに、美術・デザインに関する専門の技能、理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めた人材を養成し、もって文化の発展に寄与する」（武蔵野美術大学大学院規則、第1条）ことを目的として、1973年に修士課程を開設した。

修士課程は、造形学部の教育とのつながりを配慮し、造形学部の学科に対応するようにコースを設置し、そのコースを大きく、美術専攻とデザイン専攻としている。美術専攻には、日本画、油絵、版画、彫刻、造形学、芸術文化政策のコースがあり、デザイン専攻には、視覚伝達デザイン、工芸工業デザイン、空間演出デザイン、建築、基礎デザイン学、映像、写真、デザイン情報学のコースがある。

2004年には、より突出した制作者や研究者を養成するために、博士後期課程を開設した。博士後期課程は専門のコース制はとらずに、相互に影響しあう、作品制作、環境形成、美術理論の研究領域を設け、それらからなる造形芸術の1専攻である。その理念は、「美術、デザイン、映像、をはじめとする、今日の造形芸術における表現領域は、専門化し深化する一方で、多様化、横断化、複合化へ向かう状況が生じています。この状況に対応するために、専門性をさらに深めつつ、隣接する造形芸術の領域や関連する学術の成果を踏まえて、それらの連繋のもとに表現や研究をなしうる人材の養成をめざしています。」（大学院博士後期課程設置趣旨）

造形研究科においては、1973年修士課程開設以来、小規模ながら理念・目的に基づく人材養成が達成され、専門的職業人、研究者、専門的知識を身につけた教育者、等を輩出してきた。平成18年度の修士の学位授与は、美術専攻48名（定員28名）、デザイン専攻44名（定員28名）である。博士の学位授与は、1名（定員6名）である。

●点検・評価

博士後期課程については、博士後期課程運営委員会においてその問題や課題が議論されている。修士課程については、2000年～2003年の自己点検評価委員会のもとに、大学院点検評価実務作業委員会がはじめて設置され、修士課程各コースに対して教育の考え方や課題、現在の問題等のアンケートを行ない、その結果に基づいて、点検評価がおこなわれた。

また、主任教授による学科定員等検討会議（2003～2004年）のなかで修士課程定員の在り方、コースについて検討され、写真コースが2005年より開設されることになった。

●改善・改革方策

教員・研究者のほかに、本学の特色である高度な専門的職業人としての美術家・デザイナーの養成を継続する。

A群 大学院研究科の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性

●現状把握

武蔵野美術大学大学院は、武蔵野美術大学学則第3条の規定に基づき、学部における一般的・専門的教育の基礎のうえに、美術・デザインに関する専門の技能、理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めた人材を養成し、もって文化の創造・発展に寄与することを目的とする（大学院規則第1条）。

大学院造形研究科の理念・目的・教育目標等については、大学院造形研究科履修要項（シラバス）において、大学院規則を掲載し周知している。また本大学院のホームページにて、大学院全体及び専攻・コース毎の教育目標を公開している。

●点検・評価

本大学院造形研究科の理念・目的・教育目標等は、履修要項（シラバス）やホームページ等で公開し、積極的な周知に努めている点は評価できるが、その内容については専攻・コースによっては抽象的な概念に留まっているものも見られ、改善の余地がある。

●改善・改革方策

公開されている本大学院研究科の理念・目的・教育目標等の内容については、現在進行形の状況を踏まえた、より具体性のあるものにしていくことが望ましい。